

平成23年度

# 適性検査Ⅲ

注 意

- 1 問題は問1から問4までで、7ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は45分で、終わりは午前9時45分です。
- 3 声を出して読むはいけません。
- 4 解答はすべて解答用紙にはっきりと記入し、**解答用紙だけ提出**しなさい。
- 5 解答を直すときは、きれいに消してから、新しい解答を書きなさい。
- 6 性別・受検番号は解答用紙の決められた欄らんに必ず記入しなさい。

さいたま市立浦和中学校

次の文章や資料を読んで、問一～問四に答えなさい。

ある小学校の六年一組の「総合的な学習の時間」では、児童それぞれが興味を持った文章をもとにして、自分の考えを発表することになりました。

太郎くんは、**文章A**をもとにして「科学の進歩」について、花子さんは、**文章B**をもとにして「地球環境問題」について考えました。

資料1・資料2・資料3・資料4は、「地球環境問題」について発表する花子さんのために、先生が参考資料として用意したものです。

## 文章A

手塚治虫作「ガラスの地球を救え 21世紀の君たちへ」

光文社知恵の森文庫 22頁2行目から25頁3行目の文章による。

文章 B

佐和隆光作「豊かさのゆくえ 21世紀の日本」

岩波ジュニア新書 160頁6行目から163頁14行目の文章による。

問一 文章Aの空欄ア・イにあてはまる語句を文章Aから書き抜いて答えなさい。

(空欄アは漢字三文字、イは漢字二文字)

問二 花子さんは、文章Bの内容を整理しようと思い、次の①～⑨にまとめました。空欄ウ～カにあてはまる語句を文章Bから書き抜いて答えなさい。

### 文章Bの内容

- ① 酸性雨が（ウ）という問題。
- ② フロンガスが、大気中のオゾン層を破壊し皮膚ガンの発症率を高めるという問題。
- ③ 炭酸ガスが（エ）という問題。
- ④ アメリカ、ソ連、中国、日本の四つの国で、全世界の五二・六％の炭酸ガスを排出している。
- ⑤ 炭酸ガスは、人間や動物が（オ）によって排出するガスのこと。
- ⑥ 植物は炭酸ガスの炭素分を同化して成長する。
- ⑦ 産業革命以降、大気中の炭酸ガスの量は確実に増加した。
- ⑧ 大気中の炭酸ガスは、太陽の光は通すけれども、（カ）動きがあるため、炭酸ガスが増えると地球が温まる。
- ⑨ 地球が温暖化すれば食料危機が到来し、海拔ゼロメートル地帯が水没すると予想される。

問三 花子さんは、地球環境問題について、さらにインターネットを使って調べ、次の①～④にまとめました。空欄キ・ク内に入る語句を記入しなさい。

- ① 地球温暖化は、イギリスで始まった産業革命以降増加した炭酸ガスの影響を受けている。
- ② 最近都市の気温が異常に上昇する現象は（キ）現象と呼ばれる。
- ③ 最近埼玉県でも今までは見られなかった南方系の昆虫が何種類も確認されている。
- ④ 地球環境問題では一九九七年に日本の京都で決議された（ク）が有名である。

問四 花子さんは、文章Bのテーマを「地球環境問題」と考え、「これから私たちは地球環境問題とどのように関わっていったらよいか」という題で発表することにしました。あなたが花子さんであったならば、どのような発表をしますか。次に示す条件に従って、発表する内容を書きなさい。

条件一 資料1・資料2・資料3・資料4を参考にする。

条件二 文章は、「自分の意見」「意見の理由または意見が正しいことによりどころ」「予想される反対意見とそれに対する反論」「まとめ」の四つ部分からできていること。ただし、クラスみんなに、自分の意見がわかりやすく伝わるための効果的な文章の組み立てを自分なりに考えて、四つの部分の順序を工夫すること。

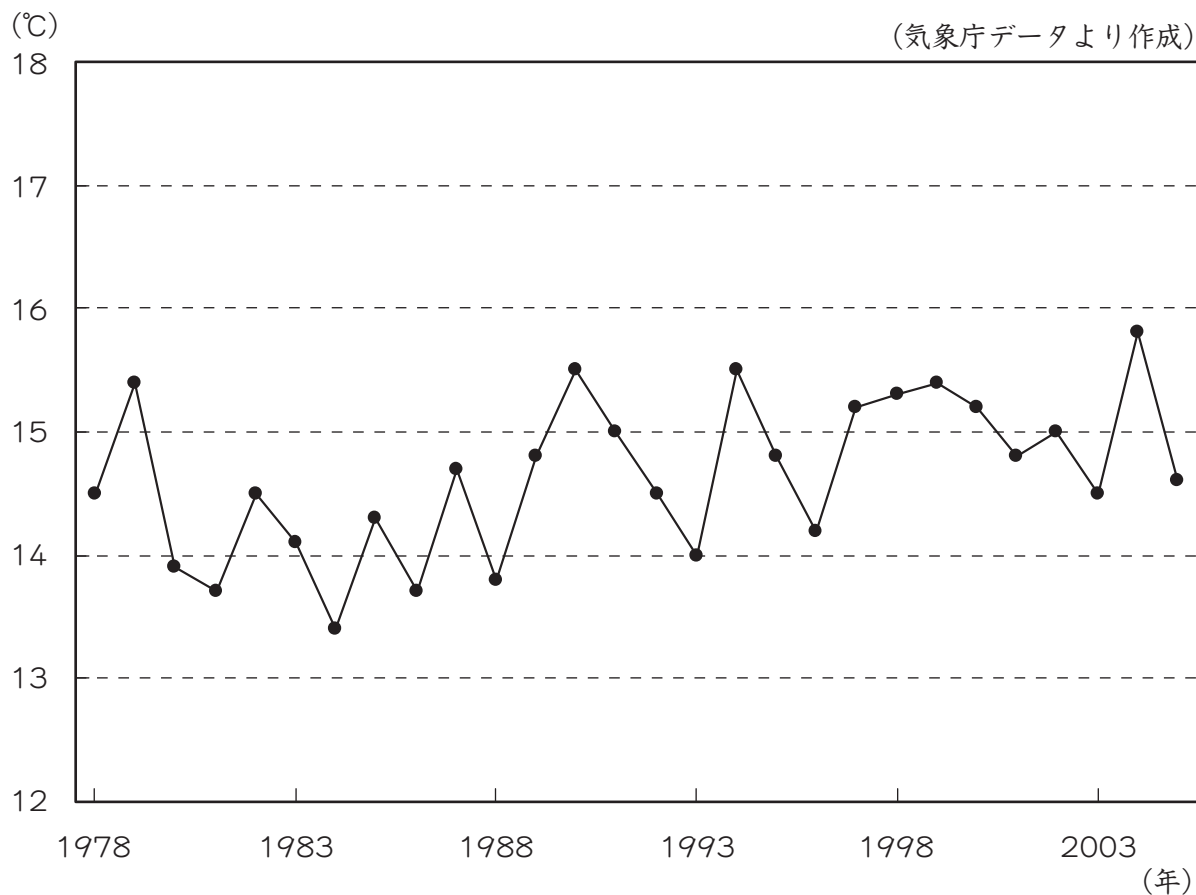
条件三 解答用の原稿用紙を使い、原稿用紙の正しい使い方に基づいて書くこと。

条件四 文章の分量は六四〇字から八〇〇字までで書き上げる。

条件五 題名や氏名は書かず、すぐに本文から書き始めること。

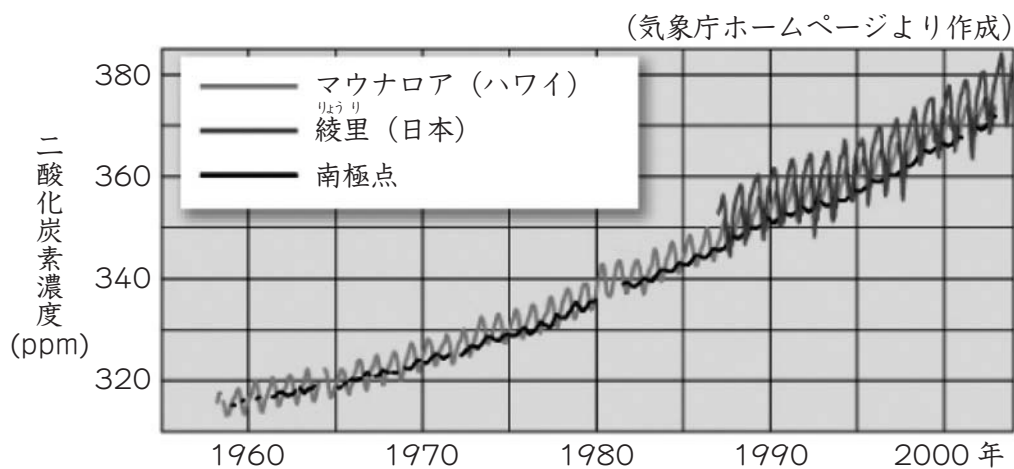
【資料1】さいたま市の年平均気温の推移

(地点：アメダスさいたま地点、期間：1978～2005年)



(「さいたま市地球温暖化対策地域推進計画」(2006年3月)より)

【資料2】大気中の二酸化炭素濃度の経年変化



(「さいたま市地球温暖化対策地域推進計画」(2006年3月)より)

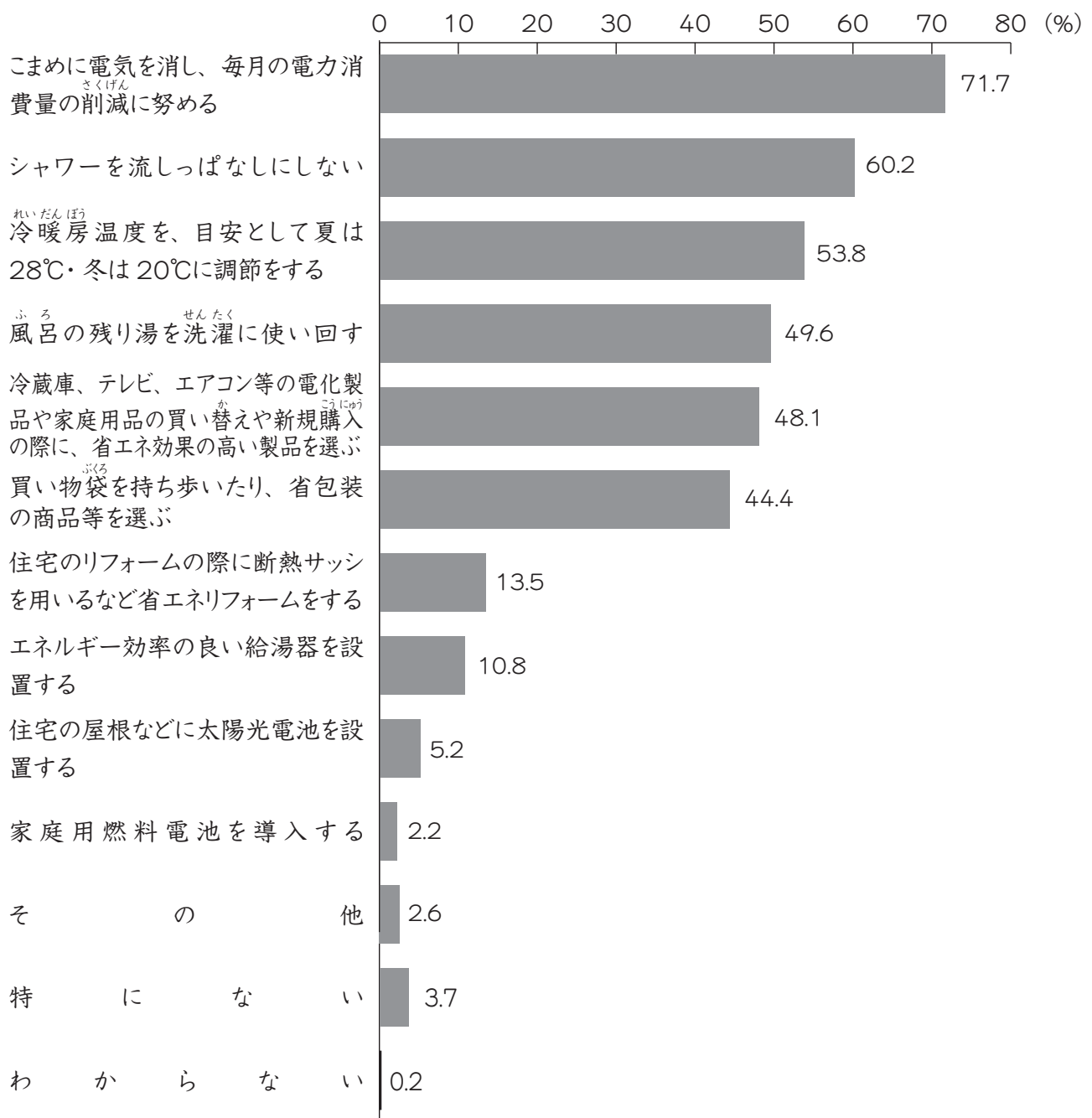
【資料3】日本において検出された地球温暖化と考えられる影響の現状

身近な自然への影響	高山植物	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆北海道アポイ岳<sup>たけ</sup>では、キタゴヨウの生育高度<sup>じょうたう</sup>の上昇<sup>とま</sup>に伴い、ヒダカソウ等の高山植物が減少し、ハイマツ等が拡大した。</li> <li>◆中部山岳<sup>さんかく</sup>ではハイマツの枝先<sup>か</sup>が枯れる現象が確認され、温暖化による積雪深の減少で、雪の保護効果が小さくなっていることが要因の一つと考えられている。</li> </ul>
	植物の 開花時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ソメイヨシノ（サクラ）の1989～2000年の平均開花日は平年（1971～2000年）より3.2日早くなった（全国89地点）。</li> <li>◆イロハカエデの紅葉日<sup>おそ</sup>が1953～2000年に約2週間遅くなった。</li> </ul>
	昆虫の 生育域	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆1940年代には九州や四国南部が北限であったナガサキアゲハが1980年代から和歌山県、兵庫県等、2000年以降は関東地方でも確認された。</li> <li>◆亜熱帯<sup>あねったい</sup>から熱帯に生息する南方系のクマゼミが、2001年には東日本でも確認された。</li> <li>◆熱帯性のスズミグモは、1970年代までは西日本のみで確認されていたが、1980年代には関東地方でも確認されるようになった。</li> </ul>
	動物の 生息域	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆近年、マガンの飛来時期<sup>おそ</sup>が遅くなり、旅立ち時期が早くなった。越冬地<sup>えっとう</sup>が本州のみならず北海道にも拡大した。個体数も増加傾向にある。</li> <li>◆キツネ、テン等が白山の標高2000m以上での生息が確認された。</li> </ul>
	海洋動植物への 影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ウミガメの産卵・ふ化場が北上し、屋久島が北限の種であるアオウミガメは、宮崎県<sup>みやざきけん</sup>、鹿児島県<sup>かごしまけん</sup>で産卵・ふ化が確認された。</li> <li>◆南方系のタコ、カニ、魚類等が北上した。</li> <li>◆沖縄県本部町の近海等でサンゴの白化現象が発生した。また、エンタクミドリイシ（テーブルサンゴの一種、熱帯）は生息域を北方へ拡大し、天草で確認された。</li> </ul>

（環境省「地球温暖化が日本に与える影響について」より抜粋）

【資料4】 家庭で行っている地球温暖化対策

(複数回答)



(内閣府大臣官房政府広報室「地球温暖化に関する世論調査」(平成19年8月実施)より)





